水田率（大一小）

岡山	太田	富倉	外様	柳原	瑞穂	木島	秋津	常盤	飯山
(75)	(71)	(69)	(67)	(62)	(61)	(59)	(56)	(50)	(44)

果樹園率（小一大）

富倉	岡山	太田	瑞穂	柳原	外様	常盤	秋津	木島	飯山
(6.0)	(0.01)	(0.2)	(1.3)	(2.4)	(3.6)	(5.9)	(7.8)	(12.9)	(14.5)

桑園率（小一大）

富倉	岡山	木島	柳原	太田	常盤	飯山	外様	秋津	瑞穂
(0.0)	(0.4)	(0.6)	(1.0)	(1.1)	(1.1)	(1.4)	(1.5)	(1.6)	(3.1)

7. 本市の農業の将来像としては，米の減反政策も進められてもいる折，水稲単作のみに頼っていては見通しは明るくない。えのき茸などの菌茸類や，雪を利用する花の栽培などに力を入れ，冬期間の労働力の流出を防ぐとともに，新しい型の農業へ脱皮を図ることが今後の課題であろう。

茅ケ丘南麓における地理学的考察

大柿恵子

調査地は山梨県の北西部，釜無川以東の火山裾野，及び沖積地である。行政的には韮崎市の東半，穂坂町，藤井町に相当する。

第Ⅰ章では気候・地形・地質・土壌・水系ら，本地域の背景としての自然環境に目を向け，第Ⅱ章では，そこに立脚する農業を，農家人口・農家戸数・就業形態・労働力らの観点から分析し，又土地利用の変遷をたどった。それらから，地形面と土地利用，土地利用上の特色を考えた。他に，主要作物の栽培状況も概観した。

第Ⅲ章では農林業センサスの統計を用い，兼業形態及び土地利用形態から集落の類型化を試み，各集落類型の分布及び類型間の相違を示した。

以上を要約すると次のとおりである。

本地域の地形配置は大きく東に茅ケ丘の火山裾野，中央に塩川沖積地，西方に韮崎台地に区分される。これらは更に，穂坂Ⅰ面，穂坂Ⅱ面，穂坂Ⅲ面，新府面，穴山面，支流の段丘面，塩川沖積面らに区分される。これらは多く，扇状地・河岸段丘であり，砂礫層の上にロームを載せているが，その下部は，韮崎火砕流，黒富士火砕流が広く分布している。

土壌は7土壌統とされ，韮崎台地の粘質な畑土壌，塩川沖積地の透水性の大きな水田土壌，茅ケ丘山麓の強粘質土壌が特色であり，又気候は，寒暖の差が大きい，降水量の少ない特色を有している。

農家人口・農家戸数共に年々減少しており，現在，4,508人，969戸である。農家人口の減少には，15才以下の年令層及び16～59才の女子の減少が大きく影響している。就業者は増加が見られるがその就業構造をみると男子の農業専業の減少，兼業化の傾向が著しいのが注目される。それと対応する様に専業農家は減少し，兼業農家の増大，特に第2種兼業農家の伸びが著しい。

本地域では耕地面積の増減はほとんどなかった。しかし耕地の利用形態には時代によっていくつかの変化が見られた。とは言ってもそれは主に作物の種類の相違であって，畑の優越は常に一貫していた。乏水性の地質・地形の反映であろうが，更に地形面と土地利用形態を調べると，この地形の制約以上に本地域では，農業用水の配置による影響が大きかったことがわかる。

農家は一般に飯米の自給を基礎に置き，現金収入は水稲以外の畑作物に依存した。それは伝統的に養蚕であり，又現在でもそうであるが，ここ数年はそれにぶどうも加え，より高い収益を求めている。

第2種兼業率，第1種兼業率，専業率を第1の指標として兼業化の強い集落，兼業化のやや強い集落，農業本業集落に農家集落を分類した。更に農業本業集落は水田率，桑畑率，果樹園率をとって4つに細分した。それらの分布をみると兼業化の強い集落が中央の塩川沖積地に，農業本業集落が東西の台地と火山山麓に分布している。経営耕地規模別には，各集落類型間にかなりの差が認められたが，労働力についての差はほとんどなく，基幹的労働的に多少の差を認めたのみであった。

岩槻市の地理学的考察

川　島　美　保

要約